

◆図書室紹介◆

沖縄赤十字病院 患者図書室 健康への架け橋 －みんなの医療情報 A から Z まで－

久高 千秋

I. はじめに

沖縄赤十字病院は、県庁所在地である那覇市に位置し、2010年7月、同市内の与儀へ新築移転しました。周辺には、沖縄県立図書館、那覇市立図書館、沖縄県立看護大学、沖縄県中央保健所などの公共施設が充実しており、アクセスも大変便利になりました。

患者図書室 健康への架け橋（以下 図書室）は同年8月、全国の病院で患者図書室の開設を広め、寄付事業を行っているNPO法人「医療の質に関する研究会¹⁾」様より支援を受け開設されました。



図1 病気・治療に関する解説本や食事療法・検査・薬の本など

蔵書は、同法人の全国の患者図書室をはじめ、患者さんに読んでほしい「医療情報図書」の推薦により、患者図書室プロジェクト推薦図書会議にて討議の上、決定された図書が寄贈され、独自に開発された分類に従い配架しています（図1、2）。



図2 木目を基調とした温かな空間

II. 図書室の概要と現状

図書室は、病院棟1階 総合受付斜め向かいにあり、外来待ち時間の利用や診療を終えた方、入院患者さん、付き添いの方など人通りは大変多く、利用しやすい場所になっています。

健康への架け橋

利用時間：月～金曜日 10:00～16:00

KUDAKA Chiaki

沖縄赤十字病院 総務課

rc-tosho@okinawa-rch.jp

休室日：土曜、日曜、祝日、年末年始、
慰霊の日

蔵書：712冊（2011年7月現在）

医療情報パンフレット：約200種類

パソコン：2台、職員用1台

閲覧席：14席

図書の貸出：当院に入院中の患者さん、
職員

貸出冊数：1回2冊

貸出期間：1週間

利用者数：6593人

（2010年8月7日～2011年8月19日）

1日平均利用者数：27人

お問い合わせ：（代）098-853-3134

（内）1196

URL：<http://www.okinawa-rch.jp/about/library.html>

図書やパンフレットの他、適切な情報を得るためのインターネットの検索（デジタルAZくん）などさまざまなメディアで情報を提供します。デジタルAZ君では、患者用医療情報サイトの表現、情報量、信頼度、対象層などについて総合評価点や評価コメントを見ることができ、医療情報閲覧の際に参考にすることができ、学習システムでは、各種検査の読み方など映像で学習することができます。

デジタルAZ君

URL：http://kanjatoshoshitsu.com/contents/preview/index_h.html

Ⅲ. 利用状況

1. 来室目的

図書室は、どなたでも利用することができ、来室される目的は様々ですが、医師の診断を

受け、限られた診療時間では理解できなかった点を補う為、さらに詳しく病気の事を知るためのほか、以下のような目的を持って来室されています。

- ・症状から体や病気について知りたい。
- ・治療法について知りたい。
- ・検査結果をもとに疑問を解決したい。
- ・他病院を検索したい。
- ・処方されたお薬の副作用について知りたい。
- ・ご自分の病気についての原因を知りたい。
- ・食事について栄養、献立等を知りたい。
- ・家族、付き添い者にできることは何か知りたい。

など、目的をもって来室される方がほとんどです。図書室には、メモ用紙を常備しており、熱心にメモを取られる方も多く、自分の病気のことがわからないと不安、原因を知っておかないと繰り返してしまうと話す利用者もいらっしゃいます。

また、目的がなくてもゆっくりとくつろぎ、読書ができる落ち着いた色調の空間は大変喜ばれています。

担当は、患者さんご自身でご自分で必要な資料を探していただくことを基本的心得とし、病気などについて調べていただくためのお手伝いをします。

『この本にしっかり載っていたよ。よくわかった、良かったさあ、ありがとう』と言っていたとお役に立つことができ良かったなと思います。また、元気になられた患者さんの顔を見ると嬉しくなります。

2. 感想やご意見

これまで、利用者の方々より貴重なご意見・ご感想をいただいたので、その一部をご紹介します。

- ・原因がわからないと怖いので自分の病気のことを知ることができて良い。
- ・医師とのコミュニケーションの為に図書を読んで知っておいた方が良いこともあると思う。
- ・待ち時間を利用して有効に時間が使えて良い。
- ・外来診療の患者にも貸出できると良い。
- ・高齢の方にもわかりやすく読みやすい本が揃っていていいですね。
- ・自分の病気について知ることは怖い。
- ・楽しい本、癒しになる本、一般書があれば良い。
- ・実際に体の構造についてイラストをみる事ができて良かった。
- ・父が肺の病気で他界したが、父の病気についていっぱい勉強して父が楽な環境を作ってあげられれば良かったなと思いました。
- ・家族が入院しており、付き添いをしているが、疲れがたまっている。看病している家族にとっても本を読みながらゆっくりできる空間はとていいですね。

Ⅲ. おわりに

今後も利用者の感想やご意見を真摯に受け止め、さらに利用者のニーズをしっかりと把握すること、例えば、乳がんについて調べたい際に、乳がんの治療前、治療中、治療後など状況においても異なる点があるので、利用者の声に耳を傾け、取り組んでいきたいと思えます。

また、今年の春には、多くの部署の協力を得て「女性の健康応援フェア」を3日間開催し、図書の紹介や骨盤底筋体操の紹介、骨量測定、ハーブティーの試飲、カルシウム強化レシピの紹介等を行うことができました。今後も他部署のご協力をいただきながら、患者さんご自身が病気や治療について知識をもち医療に積極的に参加するための図書室作りを心がけ、利用者の自己学習のお手伝いをしていきたいと思えます。

参考文献

- 1) NPO「医療の質に関する研究会」
理事長 日野原 重明 患者図書室プロジェクト [<http://www.kanjatoshoshitsu.org/>]